

一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会
2019年度 第1回定例理事会議事録要旨

日 時：2019年2月13日（水）12：00～15：30
場 所：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 1階 暁光
出席者：理事長：東口高志
副理事長：佐々木雅也
監 事：寺本房子、土岐 彰、平田公一
理 事：飯島正平、石井良昌、伊藤明美、犬飼道雄、倉田なおみ、小谷穰治、
斎藤恵子、篠 聡子、鈴木 裕、高増哲也、中瀬 一、鍋谷圭宏、
野上哲史、比企直樹、福島亮治、二村昭彦、丸山道生、三原千恵、
山中英治、吉田貞夫、鷺澤尚宏
特任顧問：平井敏弘
事務局幹事：伊藤彰博
記 録：中川庸幸（事務局）
欠席者：監 事：森脇久隆
理 事：梶谷伸顕、杉浦伸一

（敬称略：五十音順）

議 題：

I. 理事長挨拶

定款第5章第28条に則り、2019年度第1回定例理事会を開催することが宣言され、定款第5章第30条に則り、議長は理事長が務め、議事録署名は定款第33条に則り、理事長と出席した監事（寺本房子、土岐 彰、平田公一各監事）となることが確認された。また、本日開催の第6回定時社員総会では、代議員による理事選挙が予定されていること、定款変更に関わる重要な案件の審議も含まれることから、本会議に顧問弁護士、公認会計士が同席することが説明され、各先生方の紹介の後、議事に入った。

II. 前回理事会議事録の確認について

前回理事会議事録が示され、議事録署名手続きに入ることが報告された。

III. 庶務報告について

事務局より2018年12月31日時点の会員動向について、報告された。続けて、2018年度事業報告および2019年度事業計画が提出され、既に持ち回り理事会にて全会一致で承認を受けたことが報告された。

■2018年12月31日現在 ※宛先不明81名含む、退会・休会除く

会員種別	2017年12月31日	2018年12月31日	増減
名誉会長	2名	2名	±0名
名誉会員	41名	43名	+2名
特別会員	46名	48名	+2名
代議員	230名	237名	+7名
学術評議員（代議員除）	392名	395名	+3名
正会員	20,281名	20,401名	+120名
寄贈会員	7名	7名	±0名
総数	20,999名	21,133名	+134名

■職種別

医師	4,595名	管理栄養士	5,863名	言語聴覚士	554名
歯科医師	383名	栄養士	89名	歯科衛生士	108名
看護師	3,780名	臨床検査技師	705名	診療放射線技	1名
准看護師	4名	理学療法士	382名	その他	829名
薬剤師	3,730名	作業療法士	110名	合計	21,133名

■2018年分会費納入率 ※宛先不明・退会・自動退会含む

会員種別	納入者数	未納者数	納入率(2017年)	
代議員	225名	5名	97.8%	(99.1%)
学術評議員	367名	25名	93.6%	(93.9%)
正会員	19,139名	2,799名	87.2%	(89.8%)
総数	19,731名	2,829名	22,560名	

IV. 会計関連事項について

はじめに前回理事会で説明・承認された公益法人会計基準に準じた報告形式に変更した点について公認会計士から説明がなされた。続けて事務局より2018年度会計収支の説明がされ、福島理事より、2019年度一般会計・特別会計・各委員会の予算書(案)の説明がされた。

なお、本議案は、既に持ち回り理事会にて全会一致で承認を受けたことが報告された。

第33回学術集会会計収支報告については、木村 理前会長(第33回会長)より報告がなされ、理事会をはじめとした関係各位に謝辞が述べられた。

V. 各種委員会・部会 審議事項

規約委員会(鷲澤理事)

- ・役員選任の手続きの定款施行細則の変更について
現在の役員選任手続きでは、候補者と在任中の選挙理事又は監事の合計数がそれぞれ定数を超えない場合には、選挙を行わない運用としているため、現行定款施行細則との整合性を取るため、定款施行細則を現行の運用に沿った条文に変更することが承認された。
- ・会員管理に関する規約について
会員管理手続き(入会・退会・自動退会・除名・休会・再入会・復会等)に関する規約をさらに整備し、数年かけて定めて行く方針が承認された。

代議員・学術評議員選考委員会(野上理事)

- ・学術評議員申請者の選考結果について
2018年12月23日に代議員・学術評議員選考委員会を開催した。今回は学術評議員の申請審査のみとなり、学術評議員候補者として30名を選考したことが報告され、承認された。
- ・学術評議員申請書類における業績取り扱いに関する文言の一部改訂について
本年度申請対象者において、論文業績・発表業績ともに発表年月の確認が取れない申請者が多数みられた。提出された業績一覧と業績概要添付書類の両方に記載がないと実績の裏付がとれないため、来年以降の学術評議員申請における申請書類の各該当箇所(3部)に、以下の文言を追記することとした。

■著書、原著、総説、論文等の提出に関する項目へ

※公表日の記載された表紙面(掲載許可証 等)及び、要旨(該当ページ)資料の写しを添付ください。

■学会および研究会発表の提出に関する項目へ

※学会および研究会発表については、全て抄録の写しを添付ください。

発表業績の提出にあたっては、公表日の記載された抄録集の写し（印刷されたもの、Web上に掲載されたもの）を提出してください。

・歯科医師職の学術評議員申請カテゴリについて

これまで歯科医師職種は、メディカルスタッフのカテゴリでの申請としていたが、認定歯科医制度が発足して3年が経過したことを受けて、業績申請カテゴリも医師職と同一カテゴリとすることが承認された。2020年度申請の代議員申請・学術評議員申請より歯科医師職は、医師職と同一のカテゴリの申請となる。これに伴い、申請書類の表記も（医師・歯科医師）との表記に改めることになった。

国際委員会 nutritionDay WG（小谷理事）

・nutritionDayに関する今後の展開について

nutritionDayの研究計画書や説明同意文書に関して、厚生労働省の倫理指針が改訂された場合の対応についてWGより確認があった。手続きとして担当WGで作成した後、本部で専門家の依頼の可否も含め確認することになった。また、本WG長よりESPENに対して日本での登録症例のデータの入手についてお伺いしたところ、解析したい項目をESPEN側に依頼する形をとっていると案内があった。WGの活動はJSPENに還元することもミッションであるため、今後の活動にあたって、留意していくことが確認された。

保険委員会（飯島理事）

・2020年度診療報酬改定について

次期診療報酬改定作業が開始され、2018年11月30日締め切りの外保連アンケートに下記項目を要望したことが報告され、承認された。

① NST加算に地域連携の反映

② 在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料に1年後も算定可能な除外規定の追加

・在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料算定患者の登録型データベースの構築について

以下の方針に基づいてWGを組織して本年7月よりの登録開始を目指していることが報告され承認がされた。

企業との事業支援契約を結び、データベースの構築・維持に関する経費の提供を学会として受けて実施する。データベースの構築については本会が主導権と責任を持って実施し、完成したデータベースの所有権・実施権（疫学研究行為を含め）についても当会に帰属する形とする。

広報委員会（飯島理事）

・誤接続防止新規格コネクタ（IS080369-3）の周知活動の推進について

2019年12月より新規格のコネクタが流通開始となる。このコネクタは誤接続防止のためのもので、世界的に互換性のある規格となる。栄養分野でも多くの製品が対象となり、在宅を含む幅広い医療者に周知する必要があるため、当学会ウェブサイトの特設ページを開設すること、また関係する様々な学会事業機会での周知活動を展開していく方針が示され、承認された。

薬剤師部会（倉田理事）

・LLL事前学習会について

LLL事前学習会の学生受講料の軽減について提案がされ、正規受講料の半額を徴収することが承認された。

教育委員会（鍋谷理事）

・NST ベーシックコースについて

第1回 NST ベーシックコースを2018年11月18日（日）にAP名古屋 名駅にて、栄養士・管理栄養士部会の担当企画として、教育委員会・職能別活動検討委員会（栄養士・管理栄養士部会、薬剤師部会、看護師部会）主催で開催した。参加者は71名であった。

第2回 NST ベーシックコースは、薬剤師部会の企画担当のもと、2019年11月17日（日）にAP東京八重洲通り（予定）で開催予定であることが報告され、承認された。

フェローシップ委員会（三原理事）

・副賞の目的と取り扱いについて

本賞の受賞後、受賞条件を満たした受賞者には、副賞を授与している。副賞については税務上も課税対象とし税務処理もしていることもあり、申請時の提出資料については証憑等の提出を義務付けている。フェローシップ賞受賞者に対する副賞は、渡航費と宿泊費、学会参加費に充てることを前提して設立したが、昨今の現状、渡航時の航空会社のマイレージサービスを利用した場合などにおいて適切かどうかとの確認事案が生じたため専門家にも確認し、上記の目的で活用いただくことを原則として配慮していくことで確認がされた。

認定医・指導医制度委員会（福島理事）

- ・認定医・指導医制度規約・細則、認定歯科医制度規約・認定歯科医暫定認定規約の変更について
2018年12月22日に開催された平成30年度第1回臨時社員総会にて学会名称の変更が承認された。2020年1月1日より当会の名称は「一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会」と改名される。それに伴い認定医・指導医・認定歯科医制度における制度規約にある学会名称も2020年1月1日を施行日として変更する。附則については以下を明記し、旧名称との整合を取る。

『本規定は、2020年1月1日からの学会名称の変更に伴い「日本静脈経腸栄養学会」の箇所を「日本臨床栄養代謝学会」へと改める。2020年2月の定時社員総会以降に発行される認定証や修了証は、すべて新学会名称による発行とするが、過去に発行した認定証・修了証は特段の手続を行わなくても、名称の変更の前後を問わず、有効であり当会に帰属するものとして扱う。』

- ・指導医の更新料未払いに伴う対応について

所定の期日申請に対して最終的な認定申請を失念されたケースにおいて、同書類の申請期日を、昨年3月末日として通知をしていたが、翌年の先月に至るまで更新料も未納で申請・連絡がないため、認定証の発行を行っていなかった。

- ▶ 今回、指導医制度発足後として初めての事例となるため、拡大総務委員会にて確認を行ない、指導医（認定医）資格は喪失との判断で一致し、本理事会で報告することになった。
- ▶ また、同会員は認定教育施設の指導責任者の立場で登録されていることから、前回更新失効後の2018年4月1日から本日に至る実施修練を受けている研修生が存在した場合には、従前の救済事例にならい専門療法士認定制度委員会確認のもと有効な研修として扱うことが確認された。
- ▶ 対象会員には本理事会での確認をもって、資格は喪失している旨を打診し、認定教育施設の指導責任者については、交代するよう事務連絡を行うことが確認された。

- ・日本静脈経腸栄養学会認定資格 認定医・指導医制度規約施行細則 第5章 認定医・指導医の復活、再申請について

本制度規約施行細則には、資格喪失の元認定医・指導医に対して以下の復活、再申請の措置を設けている。専門療法士の場合、更新失効者は、再受験枠にて専門療法士資格の再取得を行っ

ている。認定医・指導医については、筆記試験でなく、復活願とその際に更新条件を満たしていれば、認定期間が改めて開始される規約となっているため、同じ学会の認定制度において、失効、資格復活の為の手段について、乖離（不平等）点の指摘もあり、同条を再検討すべきとの意見も出された。現状は同条項を適用して認定医・指導医の再申請該当者はいないが、認定教育施設の維持の点も含め委員会で再協議することが確認された。

専門療法士認定制度委員会（三原理事）

- ・学会の認める全国学会・地方会・研究会について
新たに承認された以下の学会・研究会が承認された。
■5単位として認められる学会・地方会・研究会
NST ベーシックコース（教育委員会・職能別活動検討委員会）
■2単位として認められる地方会・研究会
福島県 PEG と経腸栄養と在宅医療フォーラム、横浜臨床病態栄養リハビリテーション研究会、岐阜経腸栄養研究会、鹿児島栄養代謝研究会
また、2019年に現在登録されている地方会・研究会については活動状況報告調査を実施することが承認された。
- ・栄養サポートチーム専門療法士認定規程・施行細則の変更について
認定医・指導医制度規約・細則、認定歯科医制度規約・認定歯科医暫定認定規約の変更と同様に規則の変更手続きを行うことが報告され、承認された。

NST 委員会（鷺澤理事）

- ・NST 委員会内規および NST 稼働施設認定規程の変更について
NST 委員会内規、NST 稼働施設認定規程にある学会名称も認定医・指導医制度規約・細則、認定歯科医制度規約・認定歯科医暫定認定規約の変更と同様に規則の変更手続きを行うことが報告され、承認された。
- ・NST 稼働施設認定（新規・更新）について
NST 委員会での審査結果が報告されて、以下のとおり承認された。
(1) 新規：申請施設 7 施設、合格 7 施設（全施設）
(2) 更新：申請施設数 395 施設、合格 373 施設、不合格 22 施設
(3) 未申請：130 施設 すでに未更新である施設：47 施設、今回 1 回目の未更新施設：83 施設
辞退を表明した施設を含め各支部選出委員から次回の申請をお願いする。
- ・NST フォーラムについて
2019年2月15日（金）15：00～17：40【第1会場】にて、「NST 加算について今一度考える ―平成30年度改定を受けて―」をテーマとして NST フォーラムを開催する。今年も NST フォーラムでは厚生労働省関係の方をお招きし、貴重なご講演をいただくことが紹介され参加についての依頼がなされた。

学術集会検討委員会（犬飼理事）

- ・2022年 第37回学術集会開催日程の変更について
一部の会場利用希望のため折衝を続けてきたが、一週早めることで、利用が可能との打診があったため、参加者の利便性を考え開催日程の変更案が提出され、承認された。
【開催期間：2022年2月10日（木）～11日（金）】
開催地：横浜（パシフィコ横浜：国立大ホール、会議センター全館、展示ホール AB、アネックスホール）

・2023年 第38回学術集会開催地について

2020年【第35回】(京都)、2021年【第36回】(神戸)、2022年【第37回】(横浜)の順での開催となるため、2023年は関西地域での開催を優先し、会場調査を進めた。今回、神戸(神戸国際会議場 他)が、以下の開催期間での会場確保ができたため、2023年の有力開催地として提出され承認された。

【開催期間・開催地(会場)】

開催期間：2023年2月16日(木)～17日(金)

開催地：神戸(神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル)

臨床研究委員会(丸山理事)

・ホームページへの新コネクタ情報の掲載について

学会ホームページへ新国際規格 ISO 誤接続防止コネクタに関する情報掲載について提案がされ、承認された。

治験委員会(中瀬理事)

・治験委員会による治験に関するアンケート、意見調査の実施に関して

学会および学会員のアイデアの質・量、治験に対する潜在的ニーズなどを明らかにし、得られた結果を企業への提示のみならず、関連各委員会と共有することにより本会の活動に役立てられることを目的として、アンケート、意見調査を行うにあたりアンケート項目案が提出がされ引き続き関係委員会と協議し進めていくことが確認された。

事務局(伊藤事務局幹事)

・成長のための栄養(N4G)サミット2020(仮称)の日本開催について

日本国政府が主催となり栄養(N4G)サミット2020(仮称)の日本での開催が企画されていることが紹介され当会も情報共有を進めていくことが確認された。

・2019年度医師・歯科医師とメディカルスタッフのための栄養管理セミナーの後援について

一般社団法人日本病院会主催の栄養管理セミナーへの後援(厚生労働省、本学会)依頼があった。プログラム内容を確認し、昨年同様に承認することになった。

VI. 各種委員会・部会 報告事項

【総務統括部門】

規約委員会(鷺澤理事)

・現在審議中の規約について

2019年2月13日の第1回規約委員会にて以下について審議を行ったことが報告された。

1. 薬剤師部会内規改定案、2. 栄養士・管理栄養士部会内規改定案
3. 看護師部会内規改定案、4. 倫理委員会内規改定案

【渉外部門】

国際委員会(小谷理事)

・ESPEN Council meeting 報告について

資料に基づき、2019年1月12日にNiceで開催されたESPEN Council meeting について報告がされた。

・LLL ワーキンググループ活動報告について

1) 第14回 LLL ライブコースを2018年3月17日～18日 東邦大学(大森キャンパス)で8コースを開催した。登録者数延べ188名、参加者数延べ168名、合格者数延べ134名であった。

- 2) 第 15 回 LLL ライブコースを 2018 年 8 月 4 日～5 日 東海東京証券(株)オルクドール・サロン (名古屋) で 8 コースを開催した。登録者数延べ 107 名、参加者数延べ 104 名、合格者数延べ 87 名であった。
- 3) 第 40 回 ESPEN Congress マドリードでの LLL Teacher と LLL diploma の取得について
2018 年 9 月 2 日に池松禎人、菊池剛史、西村智子が LLL Teacher を取得した。(敬称略・五十音順)
2018 年 9 月 3 日に以下の方が LLL diploma を取得した。(敬称略・五十音順)
田中啓之 (医師)、永野彩乃 (看護師)、長沼 篤 (医師)、牧 香代子 (看護師)、
松井亮太 (医師)、和田 碧 (管理栄養士)
- 4) 第 16 回 LLL ライブコースの開催予定
2019 年 3 月 16 日～17 日 北里大学 (白金キャンパス) にて 6 コース開催で準備を進めていることが報告された。
- ・ nutritionDay に関する昨年の進捗状況について
2018 年 11 月 15 日に nutritionDay での調査を行った。現在、各施設より登録の作業中であることが報告された。

広報委員会 (飯島理事)

- ・ 第 30 回日本医学会総会 2019 中部分科会展示案について
第 30 回日本医学会総会 2019 中部分科会 (2019 年 4 月 27 日(土)～29 日(月)) に展示参加をすることが決定しており、パネル・映像展示作成要項に基づき作成したものが提出された。
展示場所は、名古屋国際会議場センチュリーホールのロビー前が予定されている。

【支部部会部門】

職能別活動検討委員会

看護師部会 (篠理事)

- ・ 2018 年度活動報告について
第 34 回学術集会で看護師部会がパネルディスカッションのテーマとした『気づく、繋げる、広げる栄養看護』について協議したことが報告された。

【教育・奨励部門】

教育委員会 (鍋谷理事)

- ・ 2019 年 NST 専門療法士受験必須セミナー (以下、受験必須セミナー) について

開催名	日程	会場	定員
第 1 回受験必須セミナー	2 月 15 日(金)・16 日(土)	TKP ガーデンシティ品川	700 名
第 2 回受験必須セミナー	5 月 18 日(土)・19 日(日)	東京ビッグサイト	350 名
第 3 回受験必須セミナー	6 月 22 日(土)・23 日(日)	国立京都国際会館	550 名
第 4 回受験必須セミナー	9 月 21 日(土)・22 日(日)	オーバルホール	250 名

- ・ 第 5 回 JSPEN 栄養マスターコースについて
2019 年 3 月 31 日予定の第 5 回 JSPEN 栄養マスターコースの開催について参加募集中であることが報告された。
- ・ 症例提示①: 「サルコペニアを合併した COPD 患者の栄養管理」(肺疾患 領域) 講師 吉川雅則
症例提示②: 「敗血症患者に対する栄養療法」(救急 領域) 講師 東別府直紀

小越章平記念 Best Paper in The Year 選考委員会（山中理事）

・2018年選考結果について

選考委員会選考基準にしたがい、下記の2名を受賞論文として決定し、第34回学術集会の受賞者記念講演において、発表いただく予定であることが報告された。

高木弘誠 他（岡山大学病院 消化器外科）

「膵頭十二指腸切除術における ERAS(Enhanced recovery after surgery)の有効性に関するランダム化比較試験」

「Effect of an enhanced recovery after surgery protocol in patients undergoing pancreaticoduodenectomy: A randomized controlled trial」(CLINICAL NUTRITION)

舘 佳彦 他（藤田医科大学坂文種報徳會病院 消化器内科）

「慢性肝疾患患者における骨格筋脂肪化の肝発癌への影響」

「Skeletal muscle fat deposition is associated with hepatocellular carcinoma development in patients with chronic liver disease」(Nutrition)

フェローシップ委員会（三原理事）

・フェローシップ賞受賞者選定について

1) 審査の結果、以下の1名を受賞者として選定した。第34回学術集会の受賞者講演において研究成果をご発表いただく予定である。

西岡心大（長崎リハビリテーション病院 法人本部口のリハ推進室）

「MNA-SF と GNRI は恒例回復期脳卒中患者におけるスクリーニングに妥当か？」

なお、昨年の審査会で演題名の変更が提案されたため、演題名は下記に変更されたことが報告された。

「回復期脳卒中患者における MNA-SF および GNRI の併存的・予測的妥当性の検証」

2) 第34回学術集会では、演題公募に際して本賞への応募を希望した59題のうち、条件を満たした40題から抄録にて9名を選考し、応募者セッションを行うことが報告された。

TNT 委員会（福島理事）

・2018年度の開催状況について

2018年度は15回 TNT 研修会を開催した。受講者900名であった。2017年より参加費を値上げし受益者負担の方針を進め、ランチョンセミナーを導入して赤字体質の改善を進めた。2019年度も引き続き、ランチョンセミナーの開催を企画し研修会の活動に充てていくことで準備を進めていることが報告された。

スカラシップ賞選考委員会（鈴木理事）

・選考結果について

選考委員会選考基準に従い、委員による選考評価を行った結果、上位2名が極めて僅差となり、本年は以下の1名の受賞とすることを決定した。今年より JSPEN スカラシップ賞受賞者として、本日の第6回定時社員総会で表彰式を執り行う。

神谷貴樹（滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部）

YOUNG INVESTIGATOR AWARD 選考委員会（倉田理事）

・2018年 選考結果について

選考委員会にて選考した結果、今年は無受賞者がいないことが報告された。

大柳治正記念学術振興アワード選考委員会（小谷理事）

- ・第34回学術集会での受賞者と関連講演者について
選考委員会選考基準に従い、受賞者を決定した。また、2名の関連講演を行う者を決定した。
第34回学術集会において、受賞講演および関連講演が行われる。
受賞者講演：東海林 徹先生（日新薬品株式会社学術情報部）
関連講演：倉本敬二先生（国際医療福祉大学薬学部）
関連講演：野崎 歩先生（京都桂病院薬剤科）
- ・第35回学術集会での受賞者と関連講演者の選定について
第35回学術集会に向けて選考委員会選考基準に従い、受賞者と関連講演者を決定を進めることが報告された。

YOUNG DOCTORS AWARD 選考委員会（山中理事）

- ・2018年のYOUNG DOCTORS AWARD 受賞者について
今回の学術集会の演題応募において本AWARDへの応募が無かった。広報活動と演題募集のホームページからの応募ができないことも要因と思われるので、フェローシップ賞のように、演題応募のページから応募申請ができるよう提案を行ったことが報告された。

【認定・資格検討部門】

認定医・指導医制度委員会（福島理事）

- ・認定医試験結果について
2018年11月4日に施行された認定医認定試験について、合格者30名を決定した。
- ・指導医の認定について
審査を経て、6名が指導医資格を有するものとして決定した。
- ・2018年度 指導医 資格更新審査結果について
審査を経て、14名が指導医更新資格を有することを確認した。
- ・2018年度 指導医 終身認定移行者について
第9章 認定医・指導医の認定証（更新）第21条に基づき、指導医からの2名を終身認定移行者とした。
- ・2018年度 認定医 資格更新審査結果について
審査を経て、47名が認定医更新資格を有することを確認した。うち、34名が救済措置申請による更新者であることが報告された。
- ・2018年度 認定医 終身認定移行者について
第9章 認定医・指導医の認定証（更新）第21条に基づき、認定医からの5名を終身認定移行者とした。
- ・暫定認定歯科医について
審査を経て、申請のあった5名を暫定認定歯科医として承認した。
- ・認定歯科医試験結果について
2018年11月4日に施行された認定歯科医認定試験について、合格者5名を決定した。

専門療法士認定制度委員会（三原理事）

- ・2018年度NST専門療法士認定試験結果の報告について
藤田保健衛生大学 松井敏和 教授のご協力により、本試験の信頼性について検討していただいた。その結果、信頼係数 α 値は0.88と極めて高い数値であった。受験申請者1,125名（前年より-47名）のうち、受験者数は1,040名（前年より-60名）であった。全受験者数の平均点は66.51点と昨年の62.23点を上回った。合否判定委員会で審議し、合格者数は821名（合格率

は 73.73%) となった。

- ・ 2014 年認定の NST 専門療法士の認定更新について
更新申請受付は 1,665 名、未更新者は 409 名であった。更新認定者は 1,656 名であった。
- ・ 2018 年度認定教育施設新規および更新について
更新対象 98 施設のうち、63 施設が更新の手続きを行い、引き続き認定教育施設として認定された。新規の認定教育施設は 19 施設あり、同様に認定された。
- ・ 2018 年度認定試験ワーキンググループについて
2018 年度より認定委員会は認定試験ワーキンググループとして再編成し、試験問題作成担当(試験当日の試験官担当兼務)、試験問題選択担当(症例報告書の審査兼務)として活動した。第 6 回定時社員総会にて委員名を公開し 2018 年度の試験業務の終了とする。
- ・ 2018 年 NST 専門療法士更新必須セミナー講師について
2018 年の更新必須セミナーの講師を選定し手続きを進めていることが報告された。
- ・ 2019 年認定試験について
2019 年 11 月 3 日(日)に京都国際会館で開催する予定であることが報告された。認定医・認定歯科医も同日開催予定。

NST 委員会 (鷲澤理事)

- ・ NST フォーラムの企画について
2019 年 2 月の開催報告と、次回(2020 年)フォーラムの企画予定について報告された。

編集委員会 (佐々木副理事長)

- ・ 年度別掲載状況について【(過去 5 年) 2018 年 12 月 31 日現在】

年	巻	原著	症例報告	総説(特集)	臨床経験	施設近況報告	研究報告	地方会抄録	学会からの報告	計
2014	29	17	7	44	6	2	1	42	0	119
2015	30	19	9	34	9	3	4	33	0	111
2016	31	15	10	32	4	1	2	33	0	97
2017	32	20	12	29	13	6	6	34	0	120
2018	33	18	5	28	6	4	4	34	0	99

- ・ 査読状況について (2017 年 12 月 16 日～2018 年 12 月 15 日)
郵送投稿
新規投稿数 46 本 (平成 29 年 71 本、平成 28 年 61 本)
採用 10 本 著者修正中 14 本 査読中 11 本
査読後再投稿なし 3 本 掲載不相当 8 本
オンライン投稿
新規投稿数 16 本
採用 1 本 著者修正中 9 本 査読中 4 本
査読後再投稿なし 0 本 掲載不相当 1 本 ESPEN 報告 1 本
- ・ 原稿受領から採用決定までの日数について
該当論文 41 本の平均日数 101 日 (最短 29 日 最長 230 日) 採択決定後、6 ヶ月以内に掲載していると報告された。
- ・ 電子ジャーナル (J-STAGE) について
日本静脈経腸栄養学会雑誌

33 卷 Supplement	2 月 26 日	公開	33 卷 1 号	4 月 20 日	公開
33 卷 2 号	6 月 20 日	公開	33 卷 3 号	8 月 20 日	公開
33 卷 4 号	10 月 20 日	公開	33 卷 5 号	12 月 20 日	公開

・座長推薦論文について

JSPEN2018 では、該当演題の座長より 57 件の推薦をいただき、メールで投稿の案内をおこなった。現在までに 3 本の論文が投稿されている。JSPEN2017 では、85 件の推薦に対して、10 本の論文が投稿され、8 本（原著 5 本、臨床経験 1 本、施設近況報告 1 本、研究報告 1 本）の掲載が確定している。今回、第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会においても座長推薦の依頼を実施する。

・ANNALS OF NUTRITION AND METABOLISM (ANM 誌) について

2017 年 10 月より本学会ホームページにて購読案内と日本語に訳した投稿規程を掲載し、会員専用ページ経由で同誌のオンライン購読が開始されている。当会会員の論文を中心として Japan-Topic が企画、掲載され、日本の栄養学の海外情報発信に貢献した。投稿規程改定のため、現在は日本語訳を作成中であり、近日、当学会ホームページへ掲載の予定である。

・学会誌 JSPEN 創刊について

2019 年 2 月 1 日に e-journal 「学会誌 JSPEN」 Vol. 1 No. 1 を創刊する。

原著 3 編、症例報告 2 編、施設近況報告 2 編、用語解説 1 編の計 8 編を掲載とした。

また、第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会抄録集についても、「学会誌 JSPEN」 Supplement 号としている。「学会誌 JSPEN」の掲載論文や Supplement については、発行 6 か月後に J-stage へ搭載することで進めている。

用語委員会（鍋谷理事）

・用語掲載の進捗状況について

学会誌のオンラインジャーナル化で少し遅れたが、待望の第一稿「腸管リハビリ」が公開となった。現在、「ビタミン B1」、次いで「サルコペニア肥満」、と原稿ができつつある。今後、継続的に読者に有益な情報を提供できるように、これまで選択された用語について執筆を進めていくことが報告された。

【倫理部門】

倫理委員会（鷺澤理事）

・コンプライアンス小委員会の委員任命について

2019 年 2 月 13 日の第 1 回倫理委員会にて、コンプライアンス小委員会の委員任命について協議した。

・論文と学術集会演題等、特に学術集会で発表される演題に関する倫理性を審議するシステムおよび学術集会演題審議小委員会の設置について

別添資料に基づき検討中の内規・規定案が報告された。

【臨床栄養推進部門】

ガイドライン委員会（小谷理事）

・ガイドライン作成の状況について

資料に基づき、委員会およびパネル班の準備状況について説明がされた。

臨床研究委員会（丸山理事）

・多施設共同研究の学会発表と英文論文文化について

委託研究「ペクチン含有消化態濃厚流動食品の臨床的有用性および安全性の検討」（多施設共同

研究)の学会発表と英文論文文化を行った。

・2018年度臨床研究の募集について

2018年より新設された臨床研究助成事業であるが、応募件数が0件となった。2019年は公示方法等を再検討することが報告された。

・誤接続防止コネクタ検討ワーキンググループ新ISOコネクタについて

1)新国際規格ISO誤接続防止コネクタの基礎的な通過実験の結果について英語論文として発表した。

2)新国際規格ISO誤接続防止コネクタの官能実験の結果を本学会誌に委員会報告として投稿した。

3)第34回学術集会の教育講演にて情報を発信する。

VII. 第37回学術集会会長選出

第37回(次々々回)学術集会会長に、飯島正平理事が立候補され、選出された。

VIII. 第35回(次回)学術集会会長挨拶

第35回(次回)学術集会会長の佐々木雅也副理事長より、会期:2020年2月27日(木)~28日(金)として、国立京都国際会館にて、開催することが報告された。

IX. 第36回(次々回)学術集会会長挨拶

第36回(次々回)学術集会会長の鍋谷圭宏理事より、会期:2021年2月18日(木)~19日(金)として、神戸国際会議場・国際展示場・ポートピアホテルにて、開催することが報告された。

以上

2019年2月13日(水)